平成9年（1997年）10月10日 教皇様の声 （昭和59年10月1日第三種郵便物認可）
10 OCTOBER,1997 毎月10日発行 第210号

教皇様の声

Libreria Editrice Vaticana,
Città del Vaticanoの転載許可済
© 1997

発行所
財団法人■精道教育促進協会
〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6
TEL.0797-31-3452・FAX.0797-31-3448

教会博士・幼きイエズスの聖テレジア

★ フランスでの世界青年の日の締め括りに当たり、ちょうど百年前に帰天した偉大なリジューの聖テレジアを思い起こしてみたいと思います。

このカルメル会修道女は神の愛のとりこでした。神の愛に応えて自らを完全に捧げました。素朴な日々の生活の中で、いかに兄弟愛を実行するかを知っていました。イエズスに倣い、喜んで罪人の兄弟姉妹と共に食卓につき、彼らが愛によって清められるよう願いました。彼女は全ての人を「信仰の明るい松明の光に照らされて」（手記C.6r）見ることを心から望んでいたからです。

テレジアには身体の苦しみと信仰の試練がありましたが、それでも信仰を保ちました。神が正義であり、憐れみ深いことをよく理解していたからです。彼女は、愛というものが人間から来る以上に神から来るものであることを感じ取っていました。深い闇の中でテレジアは、多くの人のために生命を与えた苦しむしもべ（イザヤ53・12参照）イエズスに希望を置きました。

★ テレジアは常に福音書を手離しませんでした。（手紙193参照）彼女は比類ない確信をもって福音のメッセージを看破しました。御父・御子・聖霊である神の生命において「愛と忠実が出会う」（詩篇85・10）ことを理解したのです。数年後、テレジアは「大きな道」（手記A.83r）を走るようになります。自分の召命が教会の心臓で愛そのものになることだと彼女は悟ります。貧しく謙遜なテレジアは「大胆な信頼」をもって御父により頼む子供たちの「小さい道」を示しました。テレジアのメッセージの核心、その霊的な心構えは、信じる全ての人のためのものです。

テレジアの教えはまことの愛の科学です。それはキリストの神秘と彼女自身の恩寵体験についての理解を明快に示しています。現代の男女、そして明日の世代にとっても、テレジアの教えは神の恵みをより良く知り、その無限の愛の良い知らせを広める助けとなるでしょう。

★ カルメル会修道女であり使徒、奉献生活を送る人々と信徒たちのための霊的知恵の教師、宣教師の保護者として、聖テレジアは教会に高い地位を占めています。そのすぐれた教えは最も実りあるものと考えられます。

数多くの要請に応じて、注意深く検討した結果、私は一九九七年十月十九日、聖ペトロ大聖堂にて幼きイエズスの聖テレジアを教会の博士と宣言する喜びを得ることとなりました。

私はこのことをここフランスで正式に発表したいと思っていました。私たちと同時代の若き聖女テレジアのメッセージは、とりわけ若い皆さんにとって興味深いことでしょう。福音という学舎で、聖テレジアはキリスト教的成熟への道を指し示しています。限りない寛大さを呼びかけ、キリストの愛の熱心な証人・弟子として教会の心臓部にとどまるよう招いています。

現代の男女が真理と愛の道を歩むことができるよう、聖テレジアに願いましょう。

テレジアと共に、聖女が誉め賛え、生涯を通じ、子としての信頼をもって祈った方、処女マリアに目を向けましょう。

（九七・八・二四、パリでの世界青年の日のミサの時のお話）

見知らぬ旅人とアブラハム

ボランティア活動に参加している皆さんを迎え、ちょうど良い機会ですので、キリスト教の愛徳にとって不可欠かつ特有の次元を持つ「歓待の精神」についてお話ししたいと思います。

「歓待」は、キリストに従う人が（個人としても家庭や共同体としても）主の命令を喜んで受け入れ、実行に移すべき愛のわざです。

現代人を取り巻く状況は、どんな文化にも見られる「受け入れ、歓待する」ことの価値を弱めたり失わせたりする危険があります。それらは実際上、特にそのために設置された組織や機関に一任されていますが、それが組織的な必要を十分に満たしている場合であっても、私たちが隣人の難儀を感じ取る心や注意深さを忘れてもよいということにはなりません。職業的な歓待も確かに価値あるものですが、その内奥の動機づけを神のみ言葉に求め、それ自体神の民

全体の持ち伝える財産でもある「歓待の文化」が、損なわれてはならないのです。

模範例として、創世の書にあるマムレのかしの木の下でのアブラハムと三人の見知らぬ旅人の出会い（創世18・1～10）を思い出してみましょう。見知らぬ旅人だと思っていましたが、太祖が迎えたのは神ご自身だったのです。歓待は、神のペルソナに人間性を加え、「私たちの中で客人、巡礼者」（イタリア語ローマ・ミサ、通常序唱VI）となられたキリストその人において完成しました。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの活動が証明しているように、歓待は巡礼という経験において特別な重要性を帯びてきます。巡礼者が病気や高齢のため特別に注意が必要な場合はなおさらです。何と多くの聖人たちが、病人を助けることで完全な愛徳を身に付けるに至ったことでしょう。聖人たちの行動には、聖体において授かり、兄弟の内で仕えるキリストただ一人が伝えることのできる、あの愛が伴なっていました。

紀元二千年の大聖年を迎えるに当たり、重要なのは私たちが歓待の精神を深めることです。教会の全共同体が、扉を叩く全ての人に心を開き、入る場所を作ることによって歓待の心を広めるよう求められています。このように、各地方教会にとって聖年は福音に立ち返り、病人と苦しむ人を迎え入れ、仕えるための摂理的な機会です。

兄弟姉妹を配慮と好意で迎えることは、特別な機会に限られません。信者全員が日々の生活の中で仕える習慣を持つようにすべきです。皆さんは教区で病人への司牧的配慮に積極的に関わっておられますが、まことに賞賛すべきことです。皆さんの望みがルルドへの巡礼体験を教会の日々の生活の中に延長することであるのがわかります。

そこで私は、皆さんが常に司教との生き生きとした一致を保ちつつ、寛大に仕事を続けてくださるよう願います。その奉仕が皆さんの聖性の源となり、皆さんが助ける人々にとっては真の慰めのもととなりますように。皆さんの守護の聖人であるルルドの聖母の特別の取り次ぎを祈りたいと思います。（…）

（九七・三・八、ボランティア団体「ルルドの歓待」のメンバーを迎えて。）

聖母の位はキリストに次ぐ

「聖母マリアと教会」シリーズ 13

1

教会憲章の第8章には、「受肉したみことばと神秘体との秘義における聖なる処女マリアの役割と…神の母に対して、贖われた人々が果たすべき義務とを解明しようと望むものである」とあります。そこで今回は、教会のマリアへの信仰の基本的な概要をお話しするつもりですが、公会議も言うように「マリアに関する全部の教理、あるいは神学者の研究によってまだ完全に解明されていない諸問題を解決しようと望むものではない」（教会憲章54番）ことをおことわりしておきます。

まず最初に、「受肉したみことばと神秘体との秘義における聖なる処女マリアの役割」（同）について、聖書と使徒たちの伝承を手掛かりに、今日に至るまで教会内で発展してきた教理を参考にして考えてみましょう。

さらに、救いの歴史におけるマリアの役割はキリストと教会の秘義と密接につながっていますから、正しい筋道でマリアに関する教えを示すなら膨大で尽きることのない豊かさを発見させてくれるであろうこれらの参照点を、見失わないようにしたいものです。

主の御母の秘義を探求するのは、実に広大無辺な仕事です。何世紀にも渡って数多くの司牧者や神学者がその作業を続けてきました。マリア論の中心を捕えるため、キリスト論や教会論と共に扱うこともありました。しかし信仰の秘義全てとマリアとの関係を考えてみれば、特別に扱うのは当然のことです。そうすれば聖書と教会の聖伝の光に照らされて、救いの歴史におけるマリアの人柄とその役割が際だって見えてくるでしょう。

2

公会議の教えに従って、「キリストの母であり、人々、特に信者の母である神の母に対して、贖われた人々が果たすべき義務」（同）について正確に説明するのも有益なことと思われます。

実にキリスト信者は、神の救いの計画の中でマリアに割り当てられた役割を認め、注目するだけでなく、信仰と聖性の面で教会の先頭に立つマリアの福音的な姿勢を生活の中で表わすため、具体的な決心を立てることが大切です。こうして主の御母は、信者の祈りの道に特別な影響を及ぼすことになりました。教会の典礼それ自体も、信者の信仰と生活に占めるマリアの唯一無二の地位を示しています。

マリアに関する教えとマリアへの崇敬は、決して感傷の産物ではありません。マリアの秘義は啓示された真理であり、信者の知性に課せられています。教会内で研究したり教えたりする任務を持つ人々は、あらゆる神学で扱うのと同じ厳格な方法でマリアの秘義の教理的考察を行なわなければなりません。

さらにイエズスご自身も人々に対し、御母について考え、神の御言葉を聞いてそれを守ったがゆえに祝された者となった方（ルカ11・28参照）であると認める時、あまり熱狂的にならないようにと諭されました。

イエズスの御母について、また救いのわざへの御母の貢献について理解するためには、愛情のみならず聖霊の特別な光が必要になってきます。

3

マリアについての教えと崇敬において、尺度とバランスを保つということに関し

説教・講話・書簡等の抄訳

て、公会議は神学者たちと神の言葉を説く者たちに対し、「あらゆる偽りの誇張を避けるように」（教会憲章67番）と強く勧めています。

「誇張」は最大限主義的な考え方をする人々によるもので、キリストの特権と教会のあらゆるカリスマをマリアにも広げようとします。

マリアに関する教えでは、人間であるマリアと神であるイエズスとの決定的な違いを常に守らなければなりません。マリアに「最高」という言葉を冠するのは、マリア論のあるべき姿ではありません。マリア研究はいつも、崇高な使命ゆえにマリアに与えられた神の賜物についての啓示を証ししていなければならないのです。

公会議は神学者や説教者に対して「過度の心の狭さを避けるように」（同）とも勧告しています。最小限主義に陥る危険…すなわち教理上の立場や聖書解釈や信心行為の中にあらわに見える、救いの歴史におけるマリアの重要性と永遠の処女性と聖性を軽視したり否定するような傾向を避けねばならないということです。

聖書と使徒たちの聖伝に見えるような、啓示された真理への首尾一貫した誠実な忠誠を保って、常にこのような両極端を避けるべきです。

4

公会議はマリアに関する真の教えを見分けるための規準を提供しています。マリアは「教会においてキリストに次いで最も高く、またわれわれに最も近い位置を占める。」（教会憲章、54番）

最も高い地位…救いの秘義でマリアに与えられたこの高い地位を見出さねばなりませんが、その地位は全て、キリストとの関係における召命の問題です。

われわれに最も近い位置…マリアの模範と取り次ぎは、私たちの生活に深い影響を及ぼしていますが、マリアのそば近くにいるかどうか、私たちは自問自答する必要があります。救いの歴史についての教え全体が、処女マリアに目を向けよと呼びかけています。いつの時代もキリスト教の修徳は、主の御旨への完全な従順の模範としてマリアを思うよう招いています。選ばれた聖性の模範であるマリアは、天国への旅路を歩む信者たちを導いてくださるのです。

日々の出来事においてそばにおられるマリアは、試練に遭っても私たちを支え、困難の中でも励まし、常に永遠の救いというゴールを指し示してくださいます。このように、母としてのマリアの役割は明らかです。イエズスの御母、私たち一人ひとりを優しく注意深く見守る母、十字架の上から贖い主はこの御母を私たちにお委ねになりました。私たちも信仰における子としてマリアをお迎えするためなのです。

（九六・一・三）

教皇さまの動き

●9・3　聖ペトロ広場での一般謁見にて。「私たち信者と聖母マリアの間には、両者とも教会に属しているとは言え、違いがあります。マリアは原罪のあらゆる汚れから守られ、キリストによってあらかじめ贖われていました。信者には誘惑や人間としての弱さがあります。」「罪人の集まりではあっても、教会は聖性に召され、日々聖性に向かう共同体であり、完成を目指す努力の中で、徳の模範マリアの励ましを感じています。」「聖母は全く聖なる方です。信者にとって聖母は、キリストとの一致によって実現するまことの聖性の模範です。教会は日々の生活の中で聖母に倣うよう努めます。」「聖母は信じる神の民を勇気づけます。希望の御母は御国を待ち望む子供らを励まし、導き、毎日の試練や悲劇的な出来事にあっても支えてくれます。輝けるマリアの愛は、教会に兄弟的な和合と愛を保たせてくれます。」

●9・4　スイス司教団の訪問を受けて。「今日、司教としての務めを果たすことには困難が伴います。司教は使徒から伝えられた信仰を保持しつつ、権威を持ってその職を果たしますが、それは世間一般の考え方とは相いれないことがあります。現代の評価すべき面を考慮しながらも、時の流行に流されないよう信者たちを助けることが大切です。」「キリストと一致した信徒は、今の現実にキリスト教的熱意を吹き込むことによって、福音の宣布と神の民の成長のため貢献する務めがあります。」「典礼に関しては、忠実さが何よりも必要です。第二バチカン公会議が言うように、典礼の編成を決定する権利は教会にのみあります。たとえ司祭でも、典礼に何かを付け加えたり、取り去ったり、変更したりすることはできません。」

●9・6　ローマ近郊のマリノにて、マザー・テレサ死去の報を受け、教皇さまからカルカッタの「神の愛の宣教者会」当てに送られた電報。「…たいへん衝撃を受けました。修道会の皆さんと共に、この創立者の霊魂を天の御父の愛に委ねます。揺るぎない信仰の人を教会と世界に与えてくださった神に感謝します。彼女は私たちに、最も小さい兄弟姉妹への謙遜な奉仕に表わされた至上の福音的愛を示してくれました。マザー・テレサのすぐれた霊的ビジョン、全ての人の中におられるイエズスへの、懇切で自分を捧げ尽くした愛、あらゆる人命に対する絶対的尊重、数々の困難に直面する勇気は、修道会に身を投じ、明るく心を込めて最も貧しい人々のために働く娘たち・息子たちを励まし続けることを疑いません。復活の希望を込め、心から使徒の祝福を送ります。」

同日、障害者の間で福音宣教とカテケージスの仕事に携わる「苦しみのボランティア」の会合に出席されて。「皆さんは〈重大な使徒職〉を行なっています。使徒的勧告『信徒の召命

不変の教え

と使命』にもあるように、病人は単に教会の世話を受けるだけの存在ではなく、救いと福音宣教の仕事に積極的に従事する責任を持っています。」「信仰の目から見れば、十字架なしに復活はあり得ません。苦しみと喜びを一致させることは可能です。そればかりか、人は十字架において、慰めをもたらす真のキリストの喜びに達することができます。そこで、紀元二千年に向けて〈キリストの唯一の贖いのいけにえと一致した、個人・共同体として捧げる犠牲〉が必要です。」その後、マザー・テレサについてお話しになった。「今朝、彼女のためにミサを捧げました。貧しく疎外された人々のための実際的で絶えることのない奉仕に明け暮れた、忘れ難い愛の証人です。」「マザー・テレサは今世紀の歴史を画しました。勇敢に生命を守り、全ての人に仕え、尊厳を高めました。…死に至るまで、自由に自分を捧げることで愛の福音を育み、その証人となりました。信仰深い神の御国のしもべたちへの褒賞が彼女に与えられるよう、祈りましょう。マザー・テレサの輝く愛の模範が、霊的家族たちと教会、全人類の慰めと励ましになりますように。」

●9・7　カステル・ガンドルフォにてお告げの祈りの時間にマザー・テレサの言葉を引用して。「祈りの実りは信仰、信仰の実りは愛、愛の実りは奉仕、奉仕の実りは平和です。」こうして貧しい者の母は「信じる人にも信じていない人にも、雄弁な模範を残しました。彼女が選び取った神の愛は、生涯を兄弟姉妹への完全な贈り物に変えたのです。」

●9・8　教皇さまはカトリック教会のカテキズムのラテン語公式版を発表し、荘厳ミサを上げられた。カテキズムの起草に協力した各委員会の面々へのお話。「本日は、到達点であると共に新たな出発点です。完成を見たカテキズムはさらに広く知られ、認められ、普及し、日々の司牧の役務と福音宣教のための価値ある道具とならなければなりません。…個人と共同体にとって貴重な祈りの手段であり、教会や教会的共同体の生き生きとした証しとしてエキュメニカルな価値を持つものです。このカテキズムは様々な地域でのカテキズム発展のためにも、確かな参考資料・権威ある案内となるでしょう。」

科学と倫理

〈科学は良心と結びつかなければ、人類に役立つことはない〉

宇宙探査国際会議に参加された著名な科学者の皆さんを迎え、喜ばしく思います。寛大にも私を会議に加わらせてくださった皆さんを通して、科学研究のさまざまな分野で活躍する同僚の方々にも訴えたいと思います。研究において、倫理を第一に考える努力を惜しまないでください。皆さんの研究方法や発見の持つ道徳的意味について、常に考えてください。知識が良心とつながる場合のみ、人類の真の福利が実現することを、科学者たちが決して忘れないよう祈っています。

先頃パドバ大学で閉会した会議のテーマは「三人のガリレオ―人間・宇宙船・望遠鏡」でした。皆さんの注目はガリレオ宇宙船から送られた最新の科学データと、宇宙船ならびにイタリア国立天文台（カナリア諸島に設置されたその望遠鏡は、その名もガリレオ）からもたらされるであろう将来の新発見に集まっています。（…）

宇宙船も天体望遠鏡も、宇宙の姿をさらに広範囲に渡ってとらえる上で重大な貢献をなしつつあります。確固たる実験結果に基づき、皆さんと世界中の科学者たちは、時の初めの極小の瞬間から現在に至るまで、さらにははるかな未来に及ぶ宇宙の発展をたどるモデルを完成させつつあります。かつてこれほど人間の目が宇宙の不思議に開かれたことはありませんでした。驚異に満ちた宇宙の姿は、人間自身の運命の偉大さと創造主への依存関係についてさらに深く考えよという絶えざる呼びかけでもあります。宇宙の広大さと宇宙を満たすダイナミズムを前に畏敬の念に打たれる時、私たちの心には魅力的で根本的な問いがこだまします。二十一世紀を迎えようとする今、なおも人類に突き付けられている問いです。

バチカン天文台が皆さんの研究に加わっていることは、宇宙を探求する科学者たちのたぐいまれな天才性、客観性、自己鍛練や真理の尊重を教会が実際に高く評価しているしるしです。科学研究への皆さんの献身は、人間家族への奉仕という真の召命、教会が心から賞賛し、評価する召命となっています。その召命は宇宙の美と秩序と、全能の創造主である神について考える人間の尊厳との間のつながりを私たちに理解させてくれるなら、一層実り豊かなものとなります。科学にたずさわる男女が宇宙の法則を見極めようと厳密な探求に励めば励むほど、その意味と目的という問題が急浮上してくるでしょう。人間がこの世から超越し、神が人間を超えた存在であるということの意味を深く理解するまで、ひたすら考え抜くことが緊急の課題となるでしょう。（ユネスコへのお話、八〇年六月二日、n.22）

皆さん、この短かいお話を終わるに当たり、宇宙の驚くべき神秘に近づけてくれる皆さんの探求が、神の力と叡知をさらに深く理解させてくれることを心から願います。皆さんの発見が、真に人間的なもの全てをもっともっと尊重する社会を築くために役立ちますように。皆さんの上に、天地の主の豊かな祝福のあらんことを！

（九七・一・十一、イタリア・パドバ大学での国際宇宙探査会議に出席した科学者たちへ）

「教皇様の声」ヨハネ・パウロ二世教皇の説教、書簡、講話等を解説なしにそのまま伝える月刊紙。■毎月十日発行　■定価　送料とも一部百八六円　■年間定期購読送料とも一部二、〇八七円。　詳しくは精道教育促進協会まで。

郵便振替
01130-
8-72393